

大門沢ウォーターフィールド

陸上競技場床面更新



松岡と神沢集落の中間にある「大門沢ウォーターフィールド」が建設され、今年で20年になります。この施設は、大門沢の洪水を一時貯留し、下流の市街地の氾濫を防ぐ役割と運動施設との2つの機能を持っています。今回老朽化した、400Mトラック等の床面の改修がされ、利用者の足に、よりやさしくなりました。地区内にある運動施設で、いつでも利用出来ます。

館報 おかた

笑顔でかわち挨拶が
岡田のみんなの合い言葉



利用について

- Q、だれでも使えるの？
A、だれでも使えます。
- 現在中は・高の学生使用が主体ですが、一般の方もジョギング、ウォーキング等を楽しまれています。
- Q、予約の必要は？
A、利用予約の必要はありません。施設利用の予約はありませんので、利用が重なる場合は譲り合って使用してください。
- Q、料金はどれくらい？
A、施設使用料は掛かりません。!!タダです!!。
- Q、利用できる時間帯は？
A、特に決まりは無いようです。(平成26年6月末現在)



標識から学ぶ 岡田の史跡・遺跡

市では、看板等で禁止事項を表示しています。



早朝、深夜いつでも良い訳ですが、近隣に住宅も多いため、使用される方のマナーが問われます。

番外

お近くにありますので、皆でルールを守り、気持ちよく施設を利用し、体力作り・健康増進にお役立て下さい。

この施設の北東に事務所建物がありませんが、この事務所トイレまでは入れます。もちろん男女別の水洗トイレです。

施設利用以外(農作業、田の草刈り、広範囲でのウォーキング等)でも使用可能です。記憶の隅に留めて置いてはいいかが？

(取材 大久保 誠)

塩倉山海福寺

創建は不詳だが、十二世紀初めと推定。信濃百番札所の二十四番札所。松本三十三番札所の二十六番札所。観音信仰の霊場として広く知られていた。

本尊は「聖観世音菩薩立像」で鎌倉時代後期作と推定される。

人物登場

ひまわりに
魅せられて

山 浦
西村 彰彦 さん



新村の交差点に満開に咲くひまわり畑は、松本の夏の風物詩となっている。今でこそ各所で見られるひまわり畑だが、その先駆者とも言える西村さんにひまわりに魅せられた経緯を聞いた。

西村さんは、レタス、カリフラワー、白ネギなどを栽培し出荷する農業者である。本業の傍ら、ひまわり栽培や競走馬の飼育を通じて地域との

つながりを大切にしてきた。そんな西村さんとひまわりの出会いは、今から12年前。心酔する歌手長瀬剛さんのライブ会場に、満開のひまわりを咲かせることを思い立ったことがきっかけだ。2002年9月7日に横浜スタジアムで行われたライブでひまわりの唄の時にファンが咲かせた2万本のひまわり。手塩に掛けて育てたひまわりが会場をひとつにした瞬間の感動は今でも彼の心を熱くさせる。それ以来、毎年のようにひまわりを栽培してきた。太陽の光を浴びて鮮やかに輝くひまわり畑は、道行くドライバーの目に留まり、いつしか多くの人が訪れる観光名所になった。また、東日本大震災による福島原発のセシウム汚染が問題になった時、種100kgを自腹で購入し、現地に花を咲かせようと奔走した。農機具メーカーの協力を仰ぐまで話が進んだが、様々な問題が生じ、計画を断念。その時の種が今年、新村で開花する。西村さんの熱い思いを一身に浴びたひまわりは奇しくも全ての始まりとなったライブのちようど12年後となる9月7日に満開を迎える予定である。(聞き手 大池正泰)



芥子坊主に
カエデ150本植わる

昨年10月に、森林の里親活動が、スポンサー「松本信用金庫」によって始まりました。



6月中旬に、スポンサーを主に、財産区関係者他100名もの皆さんによりかえでが150本植えられました。樹高3Mもある太い木のため、植穴も大きく深く(重機による)、丁寧に水やりし土を盛りました。そして支柱でささえ、木肌には、鹿(取材 小林薫 大久保直人)めきれずに家のまわりを飛び回っています。そして6月の始め、かわいい赤ちゃんツバメが顔を出して、親鳥から餌をもらい始めました。カーテンの隙間から子供達と空にさげんだ私の話を通じと見るツバメの生態は楽しく、新鮮でした。親鳥は次から次へと給餌しています。そして、3週間ほどで子ツバメは巣立つて行きました。

生活雑記
我が家にツバメがやって来た
岡田町 丸山 歩

5月のある日、我が家の玄関の軒下に、2羽のツバメがせつせと泥を運んでは、くっつけています。こんな所に巣を作られたら大変！玄関がフンだらけになってしまうと、ツバメが泥をつけたはじからホウキで落としていきました。

ところが、この2羽のつがいは、何度じやましても、巣作りを諦めません。困った私は、とうとうよしずを立て掛け、玄関の入り口を完全にふさいでしまいました。意地悪な人間に困った2羽は、しばらく諦めたのか、2羽はちゃんとその場所に巣を作り始めました。

一番喜んだのは3人の子供達。毎日ベランダの窓越しにツバメを見て、いつ赤ちゃんツバメが生まれるのかと観察していた。ツバメのさえずりが聞こえなくなつた今、汚れたベランダを見て、やれやれ、でもツバメって、とつてもかわいい顔をしていたなあ。なんて思うのでした。